

シオヤトンボを探そう

芳我 めぐみ(千葉市)

日 時：2010年4月18日(日) 10時30分～12時 天候：晴

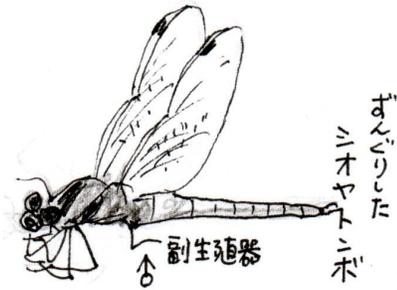
参加者：子ども4名 大人12名 計16名

担当指導員：和仁道大 芳我めぐみ

今年の春は天候不順。観察会前日には雪まで降り、シオヤトンボは果たして探せるか、心配していました。当日は快晴、春らしい天気になりました。まず観察会の始めに今日のテーマの「シオヤトンボ」の写真を見てもらいました。簡単な説明をして実際のものを探した後でいろいろお話することとして出発しました。

3日ほど続いた雨で道はグチャグチャ、両側を彩るムラサキケマンの花にも注意がいかないほどでした。谷津田に出たところで、早速シュレーゲルアオガエルのコーラスが聞こえてきました。昨年同時期のテーマだったツマキチョウをはじめ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ベニシジミなど多数飛び始め、温度が上がってきたこと知らせてくれました。コーラスは聞こえてもなかなか姿がつかめないシュレーゲルアオガエルを参加者が見つけて捕まえてくれたので、みんなでじっくり観察しました。目周辺に黒線が入っているニホンアマガエルとの見分け方を話しました。手で触って感触を確かめる参加者もいました。

11時頃にハンノキ林奥の休耕田にやっとシオヤトンボが現れました。弱々しく飛んでいたのが子どもが網で捕まえました。羽化したばかりの個体2匹です。2匹とも雌のような麦わら色をしていましたが、参加者の一人が腹部で見分け雌雄であることを説明してくれました。観察後はまだ柔らかい羽根を傷つけぬようそっと放しました。シオヤトンボの生育環境は草丈の低い草が生えている湿地や休耕田で、ヤゴは水田などの柔らかい土にもぐって生活しているので、この場所はまさにうってつけの場所です。現在湿地が減少しているのでシオヤトンボも数を減らしていることなども話しました。この他シュレーゲルアオガエルの卵塊、アズマヒキガエルのオタマジャクシ、ニホンアカガエルのオタマジャクシなども観察。最後に谷津田全貌を眺め、この時期限定、多彩な若葉の色を觀賞し観察会を終了しました。



*** 虫(中心)の調査への参加者募集 ***

「大草谷津田いきものの里」では、観察会とは別に、ボランティアで月1回第4火曜(10時～終了はアバウト：祭日の場合は第3火曜)にモニタリング調査をしています。植物調査の方は多人数なのですが、昆虫班は少ないのが現状です。そのため、虫の好きな方、かつての昆虫少年の方(もちろんずっと昆虫少年の方も)など、応援して頂ける方を募集します。申込などは不要ですから、ぶらっと一度参加してみる… というのでも結構です。

場所は東金街道の大草バス停より坂を徒歩8分くらい上った所です。

(わかりにくい場所かも) 駐車場あり

問い合わせ先：太田慶子まで keiko.oota@nifty.ne.jp